

交通事故

人ごとだと思っていないですか？

私たちの暮らしに欠かせない自動車。しかし、交通事故の危険も隣り合わせだという危機感を持たなければいけません。加害者・被害者にならないためにも、真庭市の交通事故の現状などを含め、あらためて交通安全について考えてみたいと思います。

写真はイメージです

真庭市の交通事故トップ3



原因：ぼんやり、脇見、車間距離不保持



原因：安全確認不十分、一時不停止など



原因：速度超過、カーブの小回り、居眠り



死亡事故発生率 ワースト1位

現在、真庭市は交通死亡事故の発生率が岡山県内でワースト1位となり（町村は除く）、交通情勢は非常事態となっています。これ以上死者を出さない。また限りなく交通事故をゼロにするためにはどうすればいいでしょうか。

真庭市の交通事故の現状

岡山県内の交通事故死者数は、昨年と比べて大きく減少しています。この状況で推移すれば、今年はこの数十年で最少の死者数になる見込みです。しかし、真庭市は交通事故死者数が8人に上っており、昨年と比べて交通事故総件数も増加しているなど、交通情勢は悪化しています。県内の町村を除く、市だけの交通死亡事故発生率は、真庭市がワースト1位ということで、非常事態となっています。

交通安全に関心を

皆さんは、命の重みについてどうお考えでしょうか。岡山県内では、今年も83人の方が交通事故で命を落としています。一方、殺人事件など交通事故以外の犯罪によって失われた命は12人です。交通事故と殺人事件の違いは、故意(わざと)か、過失(過ち)の違いだけで、尊い命が失われるという結果は同じはず。皆さんが暮らしている真庭市でも、8人という多数の命が交通事故で失われていることに、もつと関心を持っていたきたいと感じています。

一人一人が交通安全意識を持つことが大事です



真庭警察署 交通課
竹原 律男 課長

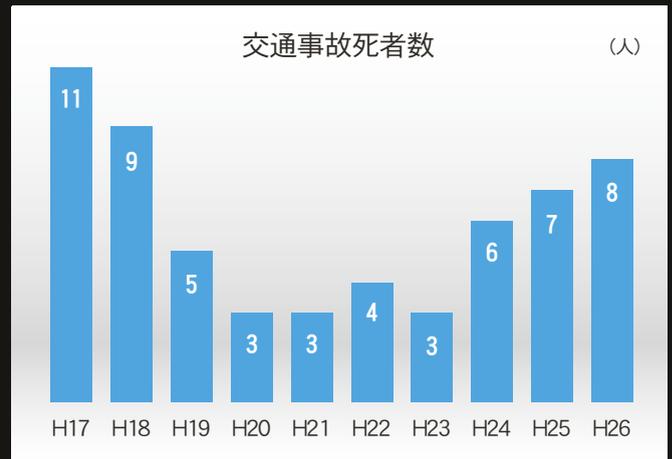
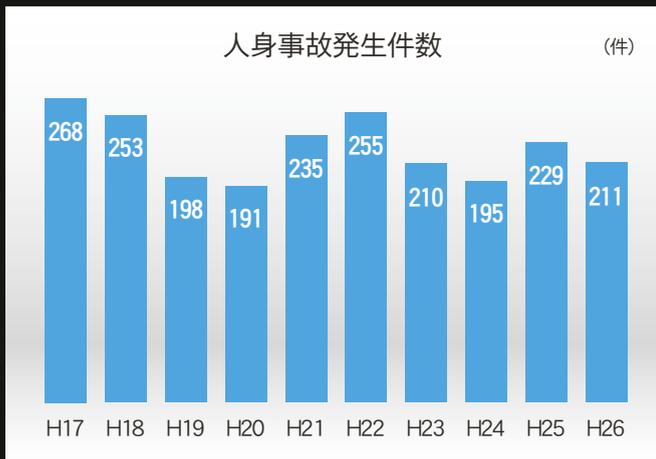
厳しい真庭市の現状

真庭市内の交通事故の現状はどのようなのでしょうか。現状について真庭警察署の竹原律男交通課長にお話を伺いました。

起こさない・遭わないために

何より道路を利用する一人一人が交通安全意識を持つことが大事です。ちょっとした気の緩みや一瞬の過ちでも、交通事故は発生します。これから冬を迎え、交通事故の増加が懸念されます。冬用タイヤやチェーンの準備など、冬期対策を早めにしてください。また年末年始でお酒を飲む機会が増えると思えますが、飲酒運転は重罪です。「飲酒運転をしない・させない・許さない」という意識を強く持ち、飲酒運転の根絶をお願いします。最後に、年末年始そして来年も安全運転をよろしくお願いします。

※文中の統計数字は本年11月16日現在の数値です。



上記のグラフは、1月1日から12月31日までに真庭警察署管内で発生した人身事故と交通事故死者数を示しています。(平成26年分については、11月16日現在の数値)管内では11月16日現在で211件の人身事故が発生し、271人が負傷しています。そして8人という尊い命が失われています。管内で発生した交通事故は日中が多く、全体の約3割が午後4時から8時までの薄暮時に発生している状況です。

(資料提供:真庭警察署)

地域で守る

地域の交通安全に取り組んでいる交通安全協会をご存知でしょうか。真庭安全協会会長の高田浩一さんに安全協会とはどんな活動をしているのかお話を伺いました。



真庭交通安全協会
たかひろかず
高田 浩一 会長



テント村で安全運転の呼びかけ



ステッカーで交通安全を啓発

真

庭交通安全協会は、市内9つの支部でさまざまな活動をしています。啓発グッズの配布やカーブミラーの清掃、高齢者への戸別訪問などを行っています。特に力を入れてるのが、「ゆっくり走ろう真庭路」運動です。これはただゆっくり走ろうという意味ではなく、ドライバーが道路の状況や自分の体調などを考え、周囲に思いやりを持つてる速度で走ろうという趣旨で推進しています。少しでも趣旨に賛同いただき、事故防止につながればと思っています。

交

通事故の当事者の大半が高齢者です。加齢とともに運転技術は低下しますが、多くの人は昔のままの感覚で運転したり夜間や早朝に

出歩き事故に遭遇している傾向があります。戸別訪問などを行い交通安全の呼びかけを行っています。高齢者の被害が跡を絶ちません。私も含め高齢者は運転技術の低下を自覚し、夜間や早朝に外出する際には安全のためにも反射材やLEDライトなどの着用をお願いします。

市

内の普通自動車免許を持つている約8割の人が交通安全協会に加入しており、これは岡山県で1番の加入率となっています。交通安全協会の活動に多くの皆様のご支援をいただいていることに感謝しています。これからも真庭市の交通事故防止に尽力していきますので、ご理解とご協力をよろしく願いいたします。

これからも真庭市の交通安全に尽力しますので
ご理解ご協力をよろしくお願いいたします



真庭市老人クラブ連合会 創立10周年記念大会 大会宣言

1. 地域を支え、地域に支えられる老人クラブを目指します。
2. 健康づくり、介護要望活動に取り組みすべての高齢者の健康寿命を伸ばすことに努めます。
3. **交通安全意識の高揚を図り、交通事故防止に努めます。**
4. 地域づくりを担う活動に積極的に取り組みます。



守ってもらうだけでなく
高齢者自らが
交通安全の実践者に

真庭市老人クラブ連合会
小林 寿満夫 会長

真庭市老人クラブ連合会は6月に創立10周年記念式典を開催し、「交通安全意識の高揚を図り、交通事故防止に努めます」という一文を大会宣言の中に入れました。高齢者はみんなから守られて当然と思うのではなく、自分から積極的に交通安全を呼びかけなければいけないと考えています。周りに呼びかけることによって自分も気を付けるようになり、交通事故の抑止力につながっていくのではないのでしょうか。私の住む勝山地区

の高齢者は、真庭警察署のお世話になり夜行タスキの効果について実験をしました。また、保育園の運動会で、横断歩道を青信号になったら子どもと高齢者が手をつないで渡るという種目も行いました。交通安全は、一人一人が気を付けなければいけません、みんなで交通ルールを守るという取り決めをすることで、お互いに注意し合えるようになります。これからも積極的に交通安全を呼びかけていきたいと思えます。

交通事故の当事者とならないために高齢者はどのような取り組みをしているのでしょうか。そして、ドライバーは普段の運転で何に気を付ければいいのでしょうか。真庭市老人クラブ連合会会長小林寿満夫さんと真庭自動車学校主任下山雅史さんにお話を伺いました。



高齢者講習を受講する参加者

広い道で側道から車が出ようとしています。その時皆さんはどこを見ますか。一般的には車を見てしまうと思いますが、本来は運転者がどこを見ているのかを確認します。免許更新では視力が0.7以上必要とありますが、これは運転者の顔を確認できる視力ということでの数値になっています。自動車学校を卒業すると習ったことをほとんどの方が忘れていくのではないのでしょうか。乗車の際に、座席確認をすることも事故を防



自動車学校で学んだ
安全運転の基本を
思い出してください

真庭自動車学校
下山 雅史 主任

ぐことができる一つだと思えます。実際、座席調整をしていなかったため、ブレーキが下まで踏み込めずぶつかったケースもありました。自動車学校では、安全に運転するための基本をお教えしています。ですから自動車学校で習った基本をまず思い出して実践していただければと思います。また、70歳以上の高齢者は免許更新の際、高齢者講習が必要です。自分の運転技術を知り、より一層安全運転に努めてください。

子どもを守る



「おはようございます!」「ってきます!」
児童たちの元気のいいあいさつが響きます

子どもたちの安全のために

真庭市内には「見守り隊」などと呼ばれ、児童たちの登下校時の安全を守る活動をされている人たちがいます。今回は、活動方法を工夫しながら落合小学校の児童たちの登下校を見守っている、「落小みまもるんじゃあ」をご紹介します。

地域で支える子どもの安全

落合小学校の見守り隊「落小みまもるんじゃあ」として地域の子どもたちの安全を守っている屋敷 清さんにお話を伺いました。



落小みまもるんじゃあ
屋敷 清さん(下市瀬)

孫だけじゃなく地域の子どもたちのために
落合小学校の見守り隊「落小みまもるんじゃあ」を孫が小学校に入学したのをきっかけに始めました。私が担当している地区は、全員で52人の子どもたちがいます。その子どもたちの見守りを私を含め3人で行っています。この地域の子どもたちは登下校の際に落合インターチェンジ前の長い横断歩道を通らなければいけません。ここは高速道路出入り口で国道沿いということもあり交通量も多く、危険な場所でもあります。子どもたち全員が横断歩道を安全に渡りきるまで見守るのが私たちの仕事です。地域の子どもたちが元気で学校に行き、そしてまた元気に帰ってくる。当たり前のことですが、その当たり前のことがずっと続いていくように少しでもお手伝いできたらと思っています。



落小みまもるんじゃあ

平成18年6月に結成。児童の住む地区まで付き添う方式や、見守る区間を定めて引き継ぐリレー方式など、地区によって方法を工夫しながら児童たちの見守り活動を行っています。

見守り隊の皆さんは「おはよう」「気を付けて行けえよ」「はい！信号が変わるから止まろう」「いってらっしゃい」と声を掛けながら、児童たちが安全に横断歩道を渡って行くのを見守っています。

「落小みまもるんじゃあ」の皆さん いつも本当にありがとうございます

「落小みまもるんじゃあ」の皆さんが交通量の多い道や、幅の狭い道など特に危険な所に立って、安全に登下校できるように声掛けしてくださっていてとても感謝しています。保護者の皆さんもとても安心されています。毎日声掛けや、あいさつをしていただいていることで、子どもたちもあいさつよくができるようになってきていると実感しています。今まで感謝の気持ちを表す機会がなく、子どもたちと一緒に感謝の気持ちを伝える機会をつくることを現在考えているところです。いつも本当にありがとうございます。

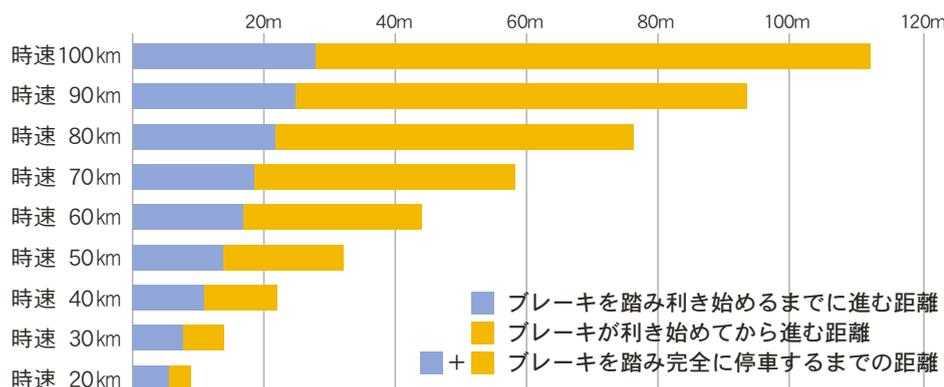


落合小学校
難波 久美子 教頭先生

制限速度を守る

スピードの出し過ぎは、車が制御不能となり大変危険です。下のグラフでは、青とオレンジでブレーキを踏んでからどれだけ進むのかを示しています。例えば時速40kmと時速100kmを比較した場合、時速40kmでは約20mで止まりますが、時速100kmでは100m以上止まるまでに進んでしまいます。車は急には止まれません。制限速度を守りゆとりを持って運転しましょう。

時速と停車するまでの距離



※道路条件などにより距離は異なります

自分を守る

交通事故を起こさない・遭わないために何をすべきでしょうか。まずは交通ルールを守り、自分で自分の身を守る意識を持ちましょう。それが事故の防止につながります。

前方を見て運転する

追突事故の原因の一つとなっている脇見。時速60kmで走行する車の場合、1秒間で17m進むといわれています。もし、その間に脇見をしていて前の車が急停車したり、横から人や車が飛び出してきたりしたら…。携帯電話やカーナビの操作や落ちた物を拾う行為は車を停車させてから行うようにし、前方をよく見て運転しましょう。



脇見運転の主な原因

- ・携帯電話を操作していた
- ・カーナビを操作していた
- ・景色や看板に気を取られる
- ・助手席の物が落ちる
- ・後部座席の物が落ちる
- ・ダッシュボードから物をとる



飲酒運転!! 絶対にダメ!!

忘年会シーズン・年末年始、飲酒の機会も増えます。1杯だけなら大丈夫…いいえ、それも飲酒です。軽い気持ちで運転して大きな不幸を招くかもしれません。決して飲酒運転はしないようにしましょう。

交通安全グッズを身につける

交通安全グッズは、蛍光反射材やLEDライトなどさまざまな種類のものが出ています。実際に夜間出かける際に着用している人は、なにも着用していない人と比べ、交通事故の被害が少なくなっています。夜間に外出する際は、着用する習慣をつけ自分の存在をドライバーに知らせるようにしましょう。

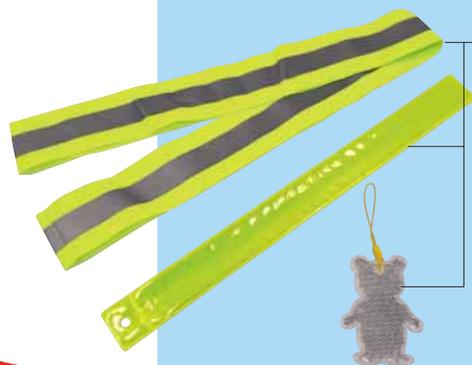
車から見える距離の比較



蛍光反射材の効果の比較



歩行者の交通安全グッズの着用だけではなく、ドライバーは早めのライト点灯や前の車や対向車、歩行者・自転車がないときはライトを上向きにして運転しましょう。



大切な**命**
交通事故なんかで
失くさない失くさせない意識を